

令和元年 1 1 月定例会一般質問発言通告表

発言 順序	議席 番号	氏名	稲 葉 晃 司 議員	1 / 2
発言項目		要 旨		答弁者
1	富士宮市の災害対策について	(1)	<p>台風 1 9 号は東日本広域に甚大な被害をもたらし、災害がれきの処理に苦慮する人たちの姿が記憶に新しく、富士宮市に大量の災害がれきをもたらす大規模災害等が発生したときに富士宮市はどのように対応していくのか以下について伺う。</p> <p>① 先の静岡県議会 9 月定例会の代表質問で公明党の守月寿美議員への答弁で、今年の 1 月に熊本地震や西日本豪雨で課題となった廃棄物の仮置き場の開設などの初動対応の机上訓練を行った際に迅速な支援要員の確保、資機材の調達方法、災害廃棄物の仮置き場の開設・運営に必要な人員や資器材の数量、住民への広報内容などもあらかじめ設定していくことが望ましい。具体的な内容を十分検討し、今年度内に県計画を見直すとともに、市町の計画の見直しを促進するとあったが、そもそも、平成 2 9 年 3 月に策定された富士宮市災害廃棄物処理計画で今現在、設定できているものとできていないものは何か。また、設定できていない要因は何か。</p> <p>② 災害がれき仮置き場の候補地になぜ、旧芝川町地域がないのか。この 9 カ所の候補地の選定はどのような基準で行われたのか。</p> <p>③ 沼津市では地震や風水害で大量に発生する災害廃棄物の広域連携処理に向けた基本協定を神戸市の産業廃棄物処理会社「大栄環境」と締結している。協定の内容は、大規模災害により、市内のごみ処理施設で対応が困難になった場合、沼津市の要請に基づき災害廃棄物の処理を支援するといったものである。静岡県の災害廃棄物処理計画では、富士宮市の災害廃棄物想定量はレベル 1（東海地震、東海・東南海地震、東海・東南海・南海地震）、レベル 2（南海トラフ巨大地震）ともに 1 4 8, 0 0 0 トンと想定されている。これらは静岡県第 4 次被害想定に基づいたものであるが、実際に富士宮市が 1 年間に処理する量の約 3. 7 倍の 1 4 8, 0 0 0 トンの災害がれきの処理に要する日数はどれほどを見込んでいるのか。市内で災害廃棄物の処理が困難になった場合の対応はどのように備えているのか。</p> <p>(2) 今後の大規模な災害等を考慮した場合、鞍骨沢処分場が満たされた後の処分場の必要性を市当局はどのように考えているのか。</p> <p>(3) 台風 1 9 号に対する避難所開設の素早い対応は高く評価したい。今後、台風等の自然災害の件数が増加していくことが予想される。そこで以下の点について伺う。</p> <p>① 平成 3 1 年度上半期の災害に対する人件費はどれほどであったのか。</p> <p>② 自然災害等の件数の増加が予想されることから災害に対応する予算は令和 2 年度当初予算でどのように対応していくのか。</p>	市長 副市長 関係部長

発言 順序	17	議席 番号	17	氏名	稲 葉 晃 司 議員	2 / 2
発 言 項 目		要 旨				答 弁 者
2	富士宮市の地域循環共生圏の取り組みについて		<p>(1) 環境厚生委員会の視察で小田原市の地域循環共生圏の取り組みについて学んできた。担当課の職員も同行していたので詳細については割愛するが以下の点について伺う。</p> <p>① 小田原市ではエネルギーを介した資金循環の例として、地域諸課題解決型コンテンツを電量に付加して販売することで、これらの活動に人と資金が循環する仕組みを作り、電力に新たな価値を創出するといった取り組みであった。その地域諸課題を解決する活動に電力の故郷をめぐるエコツアーや狩猟体験「わなオーナー」事業といった取り組みがなされていた。これは市民に電力を販売し、その売り上げを課題解決活動の財源に充て課題解決活動を経済的・社会的に価値化し、持続可能な地域社会を支える環境の保全・涵養に結びつけていく流れであった。富士宮市は「富士山と水」がテーマになることから富士宮市の水道事業で同じような取り組みができるように考えられるが課題は何か。</p> <p>② 富士宮市のテーマが「富士山と水」であることから先進地小田原市よりもやり方によっては素晴らしいものになると考えられるが、何かから手をつけていこうと考えているのか。また、目玉は何か。</p>			市 長 副 市 長 関係部長
3	城山球場の現状について		<p>(1) 城山球場の現状について、グラウンドのでこぼこがなかなかひどいことになっている。フェンスの延長、バックネット裏の雨漏りの改善等の声があるが、市当局の見解について伺う。</p>			市 長 副 市 長 関係部長